

2017.2.3

文責：谷崎佑磨

第2回 BCAO 仙台地域勉強会 議事録

1. 日時：2017年2月3日（金）17時より19時頃まで

2. 場所：東北大学災害科学国際研究所 演習室 C

3. 参加者：＜50音順＞ 計14名

*会員：寅屋敷（東北大災害研）、安倍（災害研）、尾崎（ウィッシュ）、佐々木一元（A.I.P）、
武田（山形ゼロックス）、蓮江（日本政策投資銀行）（6名）

*オブザーバー：木澤（損保ジャパン日本興亜）、佐藤恭二（ケーエス）、佐藤裕貴（宮城
保険サービス）、鈴木（三井住友海上）、谷崎（東北大公共政策大学院）、谷田（東北地整）、
中條（損保ジャパン日本興亜）、渡辺（損保ジャパン日本興亜）（8名）

4. 議事：BCAO 会合における東日本大震災被災企業の講演のビデオ学習と意見交換

(1) 演題1「東日本大震災を乗り切った事業継続の取組」（鈴木工業株式会社）

○質疑応答

Q(質問)：鈴木工業の事例は見事であるが、どうすれば他の企業にも BCP が普及するのか。

C(コメント)：中小企業等には BCP を作るための部署や人材がいないため、策定支援を通じて後押しすることが重要である。

C：鈴木工業のように、社員全員が BCP について理解を深め、取り組みを進めることが重要である。

C：東日本大震災のように県内全域が被災している場合は別として、行政が産業廃棄物の県外での処分を許可することが確実とは言えない状況下では、民間企業は広域的な連携に向けた取り組みを積極的に進めることができない。

C：損害保険だけでは、短期流動的な資金ニーズ（従業員の給与支払い等）には十分に対応できないため、保険以外の手法も組み合わせることが必要である。

(2) 演題2「東日本大震災被害対策を反映した BCP、事業継続の取組」（株式会社 本田技術研究所四輪 R&D センター）

○質疑応答

Q：研究員の安全を確保するために、R&D センターではどのような対策が実施されていたのか。

A：震度6強の対策を行っていたが、壊れた箇所もある。

C：天井落下等の情報はあまり公表されていない。

(3) その他

次回のBCAO 仙台地域勉強会の開催日時：3月3日（金）17時～18時30分

以上